



紹介される加藤町長



海割れ祭り開会式

た。村人は向かいの茅島に避難したが、ポン婆さんだけが残されてしまう。ポン婆さん



郡守室にて郡守と懇談

町から贈呈した玄関のショーケースの中にある飾り扇子に別れを告げ、今度は珍島犬テーマパークに向かった。珍島犬は秋田犬とルーツが同じ



屋台は3kmに連なる

は別れた家族に会いたくて、毎日竜王様にお祈りした。ある日、夢の中に竜王様が現われ、「明日虹の橋を架けるので海を渡りなさい」と告げられ、海辺でお祈りをしていると虎洞村と茅島の間、まるで虹のような道ができた。その道を渡り、茅島まで渡った村人が虎洞村に帰ってくる。ポン婆さん伝説が海割れ祭りの起源となったようだ。



アワビ養殖場へ

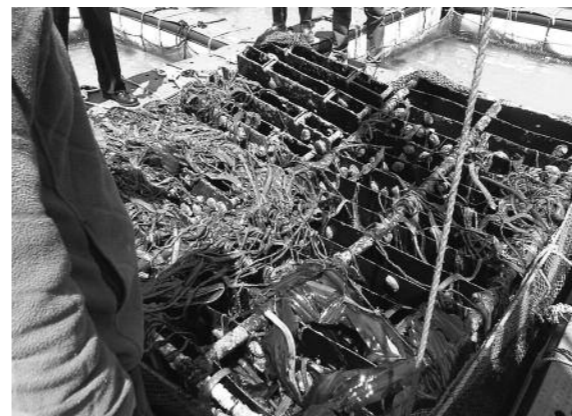
とされていることから、昨年郡守は大館市の秋田犬館を視察している。次に、訪問の主要目的の一つであるアワビ養殖場へ行く。養殖の作業船に乗り、海面に浮かぶ養殖場を視察する。入り江により自然の静穏域が確保された海域に、4×15マスのイカダ式生簀が配置され、1マスに約2000個、1つのイカダに12万個のアワビが養殖されていた。また近



たくさんの人が神秘の道を歩く



海岸道路には3kmに連なる屋台が立ち並び、数十万人の観光客でにぎわう。



養殖用アワビの生簀（左）とアワビ養殖場（右）



くには餌となるワカメ養殖場もあり、効率的に運営されていた。養殖会社の社長夫婦と一緒に昼食を取った後、いよ

午後5時半、海底が少しづつ浮かび上がってきた。6時頃には2.8kmに及ぶ茅島までの神秘の道ができたのである。潮干狩りを楽しむ人々を分けながら、不思議な面持ちでゆつくり前に進む。途中まで行く、今度は道が所々で消え始めたではないか。満ち潮だ。慌てて引き返し岸に辿り着く。
外国人案内所や一棟で数人が利用できる仮設トイレ、野外写真展及び関連グッズ販売の実施、そしてイベント会場の海岸道路全般が有料（500円）なのには驚いた。本町のイベントにも参考となるものが数多くあり、有意義な体験となった。
最後の夕食会では、郡守はじめ幹部職員も同席、両町郡の発展と再会を誓い合い友好交流の旅が終わった。



養殖したアワビ

いよ海割れ祭りオープニングセレモニーに参加する。司会者が自国語の後、英語、日本語、中国語で同時通訳し、国際色豊かなセレモニーの幕開けとなった。「日本国秋田県八峰町加藤町長」とアナウンスで紹介されると場内は拍手喝采、歓迎ムードの中、郡守あいさつ、民族芸能披露（海割れ伝説）と続いた。その伝説はこうだ。昔、虎洞村の住民が虎に脅かされてい